

第1回 西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会 議事録

1 日時

平成26年7月11日（金） 10時～12時

2 場所

西京区洛西支所第3会議室

3 出席者

懇談会委員

委員名	役職等	備考
小石 玖三主	西京区自治連合会会長	会長
片山 千恵子	新林学区社会福祉協議会会長	会長代理
入木田 浩幸	国際日本文化研究センター 管理部総務課長	委員
江村 寛計	京大桂ベンチャープラザ ビジネス・インキュベーション・コーディネーター	〃
城戸 俊明	京都おやじの会副会長, 大原野おやじの会	〃
高田 光雄	京都大学大学院工学研究科教授	〃 (アドバイザー)
富田 千果子	京都市立西総合支援学学校運営協議会副会長, 人づくり21世紀委員会西京区世話役	〃
中谷 香	西京区洛西支所地域力推進室長	〃
長谷川 一樹	行財政局総務部長	〃
南 寛	公立大学法人京都市立芸術大学事務局長	〃
村下 恒雄	NPO法人らくさいライフスタイル代表	〃
森 紳二郎	高島屋洛西店店長	〃
八木 清隆	京都大学工学研究科総務課長	〃
安枝 英俊	洛西ニュータウン創生推進委員会アドバイザー	〃

4 議事概要

(1) 会議の趣旨説明について

事務局

- ・ 本日は皆様御多忙のところ御出席をいただき、お礼申し上げます。定刻となったので、ただ今から「第1回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会」を開催する。私、この懇談会の事務局を務める京都市行財政局総務部総務課芸術大学担当課長の門野です。では、懇談会の開催に当たり、京都市行財政局長の山添から挨拶申し上げます。

山添行財政局長

－挨拶－

事務局

- ・ 続きまして、当懇談会の趣旨を簡単に御説明する。まずは、1ページの資料1を御覧いただきたい。これは今年の1月6日に門川京都市長が記者会見を行った際の資料となる。この記者会見において、市立芸術大学の崇仁地域への移転と西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会の設置を発表している。資料2ページの真ん中あたり、括弧の2を御覧いただきたい。移転整備構想の策定ということで、今年度中に構想を策定する予定としている。また、キャンパスの移転完成には今後10年程度かかると見込まれるが、事業期間をより短縮するための手法や、整備が可能となった箇所から施設を一部整備・開設していく方法等を検討していくこととなっている。
- ・ 資料3ページの真ん中あたり、2を御覧いただきたい。西京区・洛西地域における取組になる。括弧1で西京区・洛西地域の新たな活性化協議会（仮称）の設置として、西京区・洛西地域の地元の代表、地域にある学術、産業等の関係機関の代表、行政、学識経験者等による協議・連携組織として、「西京区・洛西地域の新たな活性化協議会（仮称）」を平成26年度に設置し、活性化策の検討・取組を推進することとしている。ここで言っている協議会（仮称）が本懇談会になる。本懇談会では、西京区・洛西地域の新たな活性化策について、専門的な見地及び市民の立場から幅広く御意見を求めることを目的としているが、今後どのような進め方をしていくのか、来年度以降どのような取組をしていくのかということも含め、地域の皆様の幅広い御意見を丁寧にお聴きし、委員の皆様と一緒にじっくりと考えていきたい。なお、本懇談会で検討いただいた事項については、西京区・洛西地域での様々な活性化施策に生かしていくとともに、先ほど御説明した、今年度に策定予定の芸術大学移転整備構想をはじめ、今後の芸大移転の取組にも反映させていきたいと考えている。また、本懇談会の今年度の目標としては、どのような検討事項があるかについて洗い出し、来年度以降の取組が整理できればと考えている。

(2) 委員紹介

事務局

- ・ 続きまして、委員の皆様方を御紹介する。5ページの資料2に委員の皆様の一覧を付けている。順に名前をお呼びするので、御起立いただき、簡単に自己紹介をお願いしたい。

－委員自己紹介－

(3) 会長指名

事務局

- ・ 続きまして、本懇談会の会長を御紹介させていただく。7ページの資料3の本懇談会の開催要綱、第4条第1項を御覧いただきたい。市長が会長を指名することになっており、西京区自治連合会会長の小石玖三主様に会長の就任をお願いしている。小石会長から一言御挨拶をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

会長

- ・ 市長から会長職を仰せつかった。大変重責なことと思う。これからの西京の十年、二十年先を見据えたことを考える大事な懇談会になる。不安はあるが、やはり西京の住民のことを考えて頑張っていきたい。私なりに西京のまちがこうありたいとのビジョンを持ちながら、進行したく思う。どうぞ、御協力をお願いしたい。

事務局

- ・ 次に、開催要綱の第4条第3項を御覧いただきたい。会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。となっているので、会長の職務代理者を小石会長に指名していただきたい。

会長

- ・ この懇談会は西京区・洛西地域の活性化について考えていくということで、やはり、地元の方が良いと思うので、新林学区社会福祉協議会会長の片山さんをお願いしたい。

事務局

- ・ それでは、会長の職務を代理いただく場合は、片山委員をお願いします。ここからは小石会長に議事進行をお願いしたい。

(4) 議題

ア 西京区・洛西地域の現状

会長

- ・ それでは、ここから私の方で議事を進める。早速、議題1の西京区・洛西地域の現状について、事務局から説明をお願いします。

－事務局より資料④に基づいて説明－

会長

- ・ 事務局から西京区・洛西地域の現状について説明があったが、現在、市立芸術大学が実施されている西京区での事業についても、説明をお願いします。

－芸大より資料⑤に基づいて説明－

イ 意見交換・検討事項の抽出について西京区・洛西地域の現状

会長

- ・ 次に、議題2の意見交換に移りたいと思うが、意見交換を行うに当たって事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・ 議題2として、意見交換としているが、本日が第一回目の会議ということなので、本懇談会で検討していく事項について幅広く意見交換していただければと思う。3ページの資料1の市長記者会見資料の下、(2)の西京区・洛西地域の新たな活性化策を検討という項目を御覧いただきたい。ア.検討事項として4点掲げている。一点目は、地域のポテンシャルを生かした活性化策、関係機関等のネットワークの形成。二点目は、芸大が果たしてきた役割を引き続き維持していく方策。三点目は芸大跡地活用の方向性、四点目は、交通アクセスの向上になる。4ページを御覧いただきたい。イ.検討の視点として、「文化、学術、防災」に加え、「観光、産業、環境、交通」を当面の基本視点とし、西京区基本計画のまちづくりの方向性も踏まえながら検討するとしている。
- ・ この懇談会で検討する事項については、このような想定をしているが、これ以外の検討事項やこの4点に関する更に具体的な御意見など、自由に出していただきたい。

会長

- ・ 委員から幅広い意見を出していただき、事務局は内容をホワイトボードに書き出しをお願いしたい。

委員

- ・ 世帯数が増えて人口数が減っている学区があるが、単身者など若い人が増えているためなのか。中身の分析をお願いしたい。

事務局

- ・ 全市的にそういう傾向である。学区によっては若い人が増えているが、それに対する的確に答える資料はない。参考だが、洛西ニュータウンの65歳以上の高齢者比率は、平成17年は16%前後だったのが、平成22年には23～25%と急激に高齢化している。

委員

- ・ 人口は減っているが世帯は減っていない。顕著に増えているのは、竹の里学区で、これは民間分譲マンションができたことと、スーパーの跡地に新築建売住宅ができ30・40代の世帯が住んでいるので、若い人が増えていると言える。近辺でも新しい分譲マンションができていますが、その影響ではないか。

委員

- ・ 高齢者率の上昇や、世帯数が減らず人口数が減っているのは、若者が成人になり育った家から出ている可能性もある。

委員

- ・ 10年間で高齢者が増えているが、さらに10年後の高齢者率の予測があると話がしやすい。

委員

- ・ 洛西ニュータウンの児童数が極端に減っている。竹の里学区では1学年で2学級ができるところもあるが、単学級になっているところもある。新林学区くらいがなんとか複数学級を維持できている。現在は下げ止まっているが、これから学校の維持ができるかどうか今後の議論になると思う。

委員

- ・ 小学校一年生を対象とした「歩き方教室」をしていると、8年前と今は違うと感じる。ニュータウンの学区では、1学年が3クラスから単クラスの27名とかなり減っている。これは西京区全体の問題にもなる。10年先のシミュレーションも大事なことだと思う。

委員

- ・ 日本全体として人口が減っている。世帯数も必ず減っていく。少子化がどの程度進むかによる。そういう状況が全体の傾向となっている。これは特に洛西ニュータウンに限った話ではない。今は新築住宅があれば世帯数が増えるようになっており、それ以外の原因では増えない。中古住宅・賃貸住宅が活性化する仕組みをうまく作り、住む条件を整えば世帯が増える。ニュータウン内で戸建ての賃貸や、単独世帯がシェアハウスで済むなど多様な住み方が実現し、またリノベーションや改築がしやすい多様な住環境ができる状況になれば動きがよくなる。また、前期高齢者はまちづくりの担い手になるのでそんなにネガティブになる必要がない。団塊ジュニアが関心を持ってやることが市場を作ることになる。団塊世代が後期高齢者になった時にこの問題が深刻化する。

委員

- ・ 私は、3クラスしかない時代で、すぐ直後の世代は7クラスだった時代に育った。空き家の問題もあるが、桂川を超えて来たくなる魅力づくりが大事なことと思う。高齢者が車に乗って移動することは難しい。西京区は単に寝に帰るだ

けのまちになってはいけない。「さいきょう」ではなく「にしきょう」として
かりと読んでもらえ認知されるまちにしないといけない。

委員

- ・ 西京区は他の区と比較して平均年齢が低い方である。そういう話題をするの
いい時期なのかと思う。また、小学校の話で言うと、向島ニュータウンでは小
中一貫校ができると聞いたが、洛西でもそういう話はある。そういう点も見据
えながら10年先のことを考える必要がある。

委員

- ・ 最近、京都市内よりは大阪、新潟から新たなビジネスに来られることがある。
縦貫道が繋がってから京都の南や北から来やすくなっている。それが西京区
のポテンシャルではないだろうか。今後、西京区で中小企業が増えてくれれば
いいと思う。

委員

- ・ 少子化が進んでいるなかで、障害のある生徒が増え支援学校の教室を増築した。
西京区が子供の育っていくモデルになるような地域になってほしい。バリアフ
リーやユニバーサルデザイン、環境、コミュニケーションの取りやすいまちに
なることで、結果として健常者・高齢者にもやさしいまちができ、観光客も心
地よい街になると思う。

委員

- ・ 確かに観光客は増えてきている。西京区は自然が多いので、これをもっと大切
にしていかなければならない。京都縦貫道が開通するなどポテンシャルも高ま
ってきた。

委員

- ・ 40人学級が単一クラスになっているということは、人がニュータウンに戻っ
てこないということだが、洛西ニュータウンには賃貸・中古が少なく、洛西に
近い向日市、長岡京市に築年数が若い物件が多いため、そちらに住んでいるケ
ースも多いことが分かった。京都市との境界部分に住んでいる人も多いため、
これらの地域とニュータウンをつなぐ必要があるのではないかと。

委員

- ・ 亀岡だけでなく、向日市など周辺ともつなぐ必要がある。大原野は自然も多
いし、大事なエリアになる。

委員

- ・ 同世代が大原野地区にほとんどいない。仕事が京都市内、大阪に多いのでそ
こに行ってしまう、定住してしまう。一番の課題は子供たちが大原野に住み続
けられるような産業を整えること。箱モノを作るのではなく自然を生かす。何
かベンチャーだけでなく、産業がないと西京区には定住できない。例えば、市内

の御所南学区に住みたいがためにそこへ移住してくる人もいる。そういう魅力のある学区作り，定住しに来てもらえる施策はとても重要だと思う。

委員

- ・ 里山の大原野がニュータウンの魅力だと，リタイアしてから感じた。地域的に歴史が深い場所とも思う。結婚して戻ってきたが，ニュータウンに空きがないから向日市や長岡京市に住んでいる人が多い。住みやすい豊かな環境を守って発展するには団塊ジュニアが戻ってくるような仕組みが必要だと思う。西京を癒しの里にしていきたい。

委員

- ・ 活性化の範囲はどこになるのか。また，判断材料として，現状の分析が知りたい。

委員

- ・ 西京区外から通勤しているが，当初は遠いというイメージであったが，実際通勤してみると快適な場所だった。そういうアピールももっと必要かと思う。京大としては，地域の方との連携が必要だと思うが，大学院の生徒が多いので，賑わうというよりは研究センターの静かなキャンパスなのでなかなか交流ができていない状況である。

委員

- ・ 大学は地域と連携を持っていただければありがたい。

委員

- ・ 活性化と一口にいっても色々な切り口がある。そういう課題を考慮して西京区基本計画というものが作られているので，その方向と現状を比較してみる必要があると思う。

委員

- ・ 基本計画をベースにすることが大事だと思う。一方で計画策定時には芸大の移転は想定されていなかったということもある。

委員

- ・ 芸大の1,000人生徒のうち，500人が西京区に，その内，更に300人が洛西地区に住んでいる。移転すればこの500人がいなくなることは事実である。

委員

- ・ 芸大移転は西京のまちづくりを考える良いきっかけになるのではないか。

委員

- ・ 西京区の活性化について考える時，集客を考えるよりは，まずは住民が満足して楽しく暮らしていることが基本である。地域に住んでいる人が地域に誇りを持ち，楽しく住んでいることが重要と思う。短期的に人を集める施策に頼るの

は長期的に失敗している。当たり前のことを地道にやっていく。

- ・ 芸大については研究活動があることで経済的・社会的・文化的な影響を与えていることは事実である。学生教員の居住の問題もある。客観的に整理すると具体的に見えるのではないか。

委員

- ・ ここ5年で特に地域とのつながりが深まっただけに、段々と作り上げた文化がなくなってしまうのは残念に思う。交通アクセスを良くしないと人がやって来ないし、魅力ある町でないと人が寄ってこない。それも含めた総合的なまちづくりをしたい。

委員

- ・ 西京区全体としては他の区に比べて、所管内の魅力がイメージしにくいのは事実。これからの街づくりを進めるにあたっては、10年後の街の将来像を共有することが大切と感じた。今、団塊の世代が地域で活動されていることはポジティブに考えてよいということに気付いた。ニュータウンにはそういう方がたくさんいると思う。また、団塊ジュニアの世代を見据えて活性化を考える必要があると思う。具体策までまだまだだが、どんなコンセプトで、ということはこの懇談会で具体的にしていける必要がある。

委員

- ・ 個人的には芸大は移転してほしくない。芸大も京大も日文研も住民との触れ合いはほとんどない。例えば、芸大の地域活動がどこでしているのかわからない。もっと積極的に住民に関わってほしいし、コミュニケーションをとって周知してほしい。芸大があることでの影響はある。移転後、その影響を消してしまうのではなく、移転後も、一緒にどのような活動ができるか見つけ出したい。

会長

- ・ 本日の御意見は本懇談会の今後の進め方に関わるものなので、事務局の方でしっかりと整理していただきたい。

ウ 検討事項に対する意見集約

会長

- ・ 今後の進め方ということで、議題3の「検討事項に対する意見集約」に移りたい。事務局から説明をお願いする。

事務局

- ・ 意見交換で抽出した検討事項に対し幅広い地域の皆様の御意見をどのようにして集約していくかについて、事務局から2点提案したい。まず1点目は、地域の様々な方に御参加いただく住民円卓会議の開催である。18ページの資料6を御覧いただきたい。住民円卓会議では、先ほどの意見交換を踏まえて設定

したテーマについて、御意見を出していただくことを考えている。ワークショップ形式で開催し、会議メンバーにつきましては、西京区の各自治連から2名から3名の方に御参加いただくことなどを想定しているが、形式や会議メンバーについては、テーマに沿って臨機応変に対応していければと考えている。2点目は、芸大移転の影響が考えられる近隣のマンションや飲食店等の経営者の方への対策を検討するため、まずはアンケートにより意向調査を行いたいと考えている。本日この提案を了承いただけるのであれば、詳細案を事務局で検討する。本来は事務局で詳細案作成後に、この懇談会に諮る必要があるが、多忙な委員の皆様が集まっていただくのは大変と思うので、事務局の方で委員の皆様の御意見を伺い、小石会長に終確認させていただき、決めていきたい。その後、住民円卓会議を開催し、その結果については、第2回の懇談会で皆様に御報告させていただく。芸大近隣のマンション、飲食店経営者へのアンケート調査につきましては、少しお時間をいただき、委員の皆様とも御相談しながら、アンケート内容を検討していく。

会長

- ・ 事務局から、「検討事項に対する意見集約方法」について、住民円卓会議の開催と京都芸大近辺のマンション・飲食店経営者などへのアンケート調査実施という提案があった。これらについて、委員の皆様には意見はあるか。円卓会議で議論するテーマについても御意見を出していただきたい。

委員

- ・ 事業活動をする場合、一般企業ではマーケティング活動を重視している。地域住民がどのような意見を持っているか、円卓会議だけでなく、もっと幅広く拾うことはできないか。区民全てに聞く必要はなく、一定の人数の意見を集約できれば、統計学的にも一定の方向は出るはずである。

委員

- ・ 以前、基本計画を作るときにも、意見をできるだけ吸い上げる仕組みは作ったが、どうしても年配者の意見が集まり、若い人の意見が少なかったことがある。

委員

- ・ まずは、事務局の提案通りに進めたいので、段階的に幅広い意見を吸い上げるのがありがたい。

委員

- ・ 集約よりは、幅広い意見をまとめていただくといいと思う。アンケートの方は、どんな影響があるかが目的と考えていいのか。影響があるところはネガティブな反応があると見えるが、このアンケートで拾えることができればいいと思う。

会長

- ・ 異論がないようでしたら、事務局の方で詳細の検討を進めていただきたい。

エ 今後のスケジュール

会長

- ・ 議題4の今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・ 今年度は、今日を含めまして3回程度懇談会を開催するとともに、円卓会議も開催しながら、検討事項の洗い出しと来年度以降の取組について整理をする。また、今年度末には懇談会・円卓会議での今年度の検討結果を取りまとめたい。

会長

- ・ 今後のスケジュールについて、意見はあるか。無いようなら、今後のスケジュールについては、事務局から説明があったとおりに進めていくこととする。本日予定しておりました議題は以上だが、全体を通して何かあるか。

委員

- ・ このプロジェクトで最終的にどこを目標とするのか。

会長

- ・ ビジョンが必要なので一つのものを作り上げないといけない。魅力あるまちづくりや跡地の活用も含めて、この3年程度で一つのビジョンの策定を目指す。

委員

- ・ 芸大跡地をどうするのが議論のメインになるのか。

会長

- ・ それだけに特化せず、洛西全体の活性化について考える。

会長

- ・ それでは、これで「第1回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会」を終了させていただきます。

以上